

## 9 月期相場概況

9 月期の日経平均株価は約 359 円下落した。期中の高値は期初 9/1 の日中高値 10,577 円、

安値は期末 9/28 の日中安値 9,971 円

9 月期の日経平均は、3-8 月の半年間の長い上昇相場が一息ついた形となった。前期末に民主党が圧勝した衆院選後は 10,500 円近辺で一進一退を繰り返したが、9/2 は前日の米国株が 200 ドル以上という大幅な下落をしたことで再び急落 10,200 円近辺まで 300 円の下落となった。9/4 まで下落は続き選挙前の 8/21 安値 10,140 円近辺まで下落した後は急速に戻し、

米株や欧州が年初来高値を更新する勢いだったことから SQ 前日 9/10 に引け高の形で再び 10,500 円を突破、しかし SQ では 91 円台という急速な円高を嫌気し、上方向幻 SQ となる形で 10,444 円で引けた。

SQ 後の週明け 9/14 も 90 円台半ばまで円高が進み、90 円台割れが意識されたことで日経平均も寄りからじり下げ、しかしここ最近の 10,150 円~10,640 円レンジの下限は買われる動きで、また節目の 90 円で反発したことで円高も一服、また米株の高値更新が続いていたことで日経平均はレンジでの推移が続いた。連休明けの 9/24 は連休中に米株が高値を更新したこと、また配当取り需要などで再び買い意欲が高まり、日経平均はよりからじり下げ、

再び 10,500 円を突破したが翌日にあっさり割り込む形で次第に頭の重さが目立つようになった。輸出銘柄は円高で売りに押され、内需銘柄もアイフル・ショック、亀井モロトリアム、JAL で売られ、海外株に比べて市場全体が軟調となった。

今期最終週の月曜日 9/28 には、G20 を受けて 1 ドル 88 円台と円高が大幅に進んだことで日経平均は大幅に下落、これまでレンジ下限であった 10,150 円を下抜くと相場は下放れし節目の 10,000 円の台を一時割り込んだ。その後やや買い戻される形で 10,133 円で終えた。